

火おこし体験

縄文人になりきってはずみ車付きの火おこし器で火をおこします。

火おこし体験から野外炊飯を実施すれば最高の思い出に。
 班の協調性や最後まで努力する心の伸長、達成感を味わえます。



| | | | | | |
|--------------|--------------------------------------|--|---|-----------|-----|
| 時期 | 4～10月 | 所要時間 | 1時間 | 人数 | 50名 |
| 対象 | 小学校中学年以上 | 活動場所 | 野外炊飯場 | | |
| 準備物 | 自然の家で貸し出す物 | | 団体・個人で準備する物 | | |
| | 火おこし体験セット | | <input type="checkbox"/> 活動に適した服装 <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> 帽子 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 水筒(必要に応じて) | | |
| 活動の手順 | 事前指導 | 1 内容の確認 昔ながらの方法で、火をおこすことにより、火の大切さや必要性を理解することができます。 自分たちで火をおこす体験により、達成したという満足感を味わうことができます。 2 準備品の確認 ・活動できる服装を確認する。 ・火おこし体験セットの確認をする。 | | | |
| | 活動の実際 | 1 活動の説明を聞く。 (1)ねらいの確認 (2)活動方法 ①火きり臼(うす)の上に火きり杵(杵)を立てる。 ②ひもを火きり杵(きね)にまきつける。 ③火きり弓を上下に動かして火きり杵(きね)を回転させる。 ④木と木の摩擦で、煙が出てくる。 ⑤火切り(うす)の穴からこげた木の粉がこぼれ、その中に火種(ひだね)ができる。 ⑥火種(ひだね)をもやもや(ティンダーヘンプ)と木くずに移し空気を送り、火を大きくする。 2 活動開始 起きた火をかまどに移す際に火傷に注意させます。 | | | |
| | 事後 | 1 怪我の確認をする。 | | | |
| 備考 | 起きた火で野外炊飯等を実施すれば、活動プログラムにつながりが生まれます。 | | | | |

